



asteria warp
Business Automation Platform

環境移行ガイド

ご注意

本書は著作権法により保護されています。インフォテリア株式会社による事前の許可無く、本書のいかなる部分も無断転載、複製、複写を禁じます。本書の内容は、将来予告無しに変更することがあります。

Infoteria、インフォテリア、ASTERIA は、インフォテリア株式会社の登録商標です。
このマニュアルに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその会社および製品を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

2017年12月15日

インフォテリア株式会社

Copyright © 2017 Infoteria Corp. All rights reserved.

目次

1. 移行する前に【必ずお読みください】	4
1.1. フォルダー構成について	4
1.2. フローサービスと旧フローサービスの同一マシンへのインストールについて	4
1.3. 廃止されたコンポーネントについて	4
1.4. ファイルパス指定のプロパティについて	5
1.5. フローで登録したスケジュールについて	5
1.6. チェックポイントについて	5
1.7. 3RD パーティ製のアダプターについて	5
2. フロー実行環境の移行手順	6
2.1. 移行手順	6
1) 旧フローサービスで移行対象ではないユーザーを削除する	6
2) 旧フローサービスの管理コンソールで設定値を取得する	6
3) 旧フローサービスから実行設定をエクスポートする	6
4) フローサービスでアカウントを作成する	7
5) システムに関連するファイルをコピーする	7
6) フローに関連するデータ類をコピーする	7
7) フローサービスで実行設定をインポートする	8
8) 管理コンソールで必要事項を設定する	8
9) フローサービスを再起動する	8

1. 移行する前に【必ずお読みください】

1.1. フォルダー構成について

ASTERIA WARP 1610 以降のインストールフォルダーとデータフォルダーの構成は、ASTERIA WARP 4.9.1 以前のフォルダー構成と互換性がありません。インストール時に指定するインストールフォルダーは ASTERIA WARP 4.9.1 以前のバージョンのインストールフォルダーと異なるフォルダーを指定してください。また、インストール後に行う初期設定のデータフォルダーの指定においても、ASTERIA WARP 4.9.1 以前のバージョンのデータフォルダーは絶対に指定しないでください。

ASTERIA WARP Flow Designer も 1610 以降と 4.9.1 以前では互換性がありません。インストール時に指定するインストールフォルダーは 4.9.1 以前のバージョンのインストールフォルダーと異なるフォルダーを指定してください。

補足：

プロジェクトファイルを編集するときには、サーバー、デザイナーのバージョンを合わせるようにしてください。

これ以降の製品名称は以下のように記述します。

- ASTERIA WARP 4.9.1 以前のサーバー → 旧フローサービス
- ASTERIA WARP 4.9.1 以前の Flow Designer → 旧フローデザイナー
- ASTERIA WARP 1610 以降のサーバー → フローサービス
- ASTERIA WARP 1610 以降の Flow Designer → フローデザイナー

また、それぞれのインストールフォルダを以下のように記述します。

- ASTERIA WARP 4.9.1 以前のインストールフォルダー → **WARP_INSTALL_DIR**
- ASTERIA WARP 4.9.1 以前のデータフォルダー → **WARP_DATA_DIR**
- ASTERIA WARP 1610 以降のインストールフォルダー → **ASTERIA5_INSTALL_DIR**
- ASTERIA WARP 1610 以降のデータフォルダー → **ASTERIA5_DATA_DIR**

1.2. フローサービスと旧フローサービスの同一マシンへのインストールについて

フローサービスは既に旧フローサービスがインストールされているマシンに対してもインストールすることができます。同一マシンでフローサービスと旧フローサービスを同時に起動することがある場合、インストール後に行う初期設定でポート番号は旧フローサービスとは異なるポート番号を指定してください。同一マシンでフローサービスと旧フローサービスを同時に起動することがない場合、同じポート番号を使用することができます。

1.3. 廃止されたコンポーネントについて

ASTERIA WARP 1610 で次のコンポーネントが廃止されました。

- AACLogin/AACExistUser/AACRoleCheck/AACGetUserAttributes
- Ant
- ExcelInput/ExcelOutput/ExcelSlimInput/ExcelSlimOutput
- JavaClass
- JFT
- NeoCoreGet/NeoCorePut
- NotesGetAdv/NotesPutAdv
- XBRLChoice/XBRLEncoder/XBRLDecoder/XBRLContextSplitter/XBRLCSVConverter/XBRLCSVExtractor

これらのコンポーネントを使用しているフローは移行できませんので、事前に旧フローサービスにてこ

これらのコンポーネントを使用しない方法でフローを実装しなおしてください。

1.4. ファイルパス指定のプロパティについて

FileGet/FilePut コンポーネントなど、コンポーネントのプロパティでファイルパスを指定するコンポーネントは、次の点に注意してファイルパスを確認してください。

- 絶対パスを指定している場合
旧フローサービスの WARP_INSTALL_DIR や WARP_DATA_DIR 配下のフォルダーやファイルを絶対パスで指定している場合は ASTERIA5_INSTALL_DIR や ASTERIA5_DATA_DIR 配下のパスに変更する必要があります。
- 「..」を使用した相対パスを指定している場合
「1.1 フォルダ構成について」に記述されているように、旧フローサービスとはフォルダ構成が異なりますので、「..」で上位のパスに遡ってパスを指定している場合に、予期せぬフォルダやファイル进行操作する可能性があります。例えば、ユーザーのデフォルトのホームフォルダは旧フローサービスでは WARP_DATA_DIR/flow/home の配下にあります。フローサービスでは ASTERIA5_DATA_DIR/home の配下であり 1 階層フォルダが少なくなっています。このため、「../temp」などのように「..」を複数回指定していた場合に想定と異なるパスとなることがあります。そのような場合には事前に別のパスに変更する、または、移行後にパスの場所を調整する必要があります。

1.5. フローで登録したスケジュールについて

Timer コンポーネントや SingleSchedule コンポーネントなどで登録したスケジュールは移行されません。

1.6. チェックポイントについて

エンタープライズエディションでチェックポイントを使用している場合には、エラーとなっているチェックポイントのリクエストは移行されません。移行前にエラーとなっているリクエストを再実行してください。

1.7. 3rd パーティ製のアダプターについて

3rd パーティ製のアダプターの移行方法につきましてはアダプター製造元にお問い合わせください。

2. フロー実行環境の移行手順

2.1. 移行手順

移行する手順は次のとおりです。次項から詳細な手順を説明します。

- 1) 旧フローサービスで移行対象ではないユーザーを削除する
- 2) 旧フローサービスの管理コンソールで設定値を取得する
- 3) 旧フローサービスから実行設定をエクスポートする
- 4) フローサービスでアカウントを作成する
- 5) システムに関連するファイルをコピーする
- 6) フローに関連するデータ類をコピーする
- 7) フローサービスで実行設定をインポートする
- 8) 管理コンソールで必要事項を設定する
- 9) フローサービスを再起動する

1) 旧フローサービスで移行対象ではないユーザーを削除する

フローの実行環境を移行するためには、旧フローサービスのすべてのユーザーの情報を移行する必要があります。移行する必要のないユーザーが存在する場合には、あらかじめ旧フローサービスの管理コンソールで必要のないユーザーを削除してください。旧フローサービスのユーザーを削除したくない場合は、本節の手順を省略し、次節以降ではすべてのユーザーを移行してください。

1. 旧フローサービスを起動します。
2. 「ツール」－「アカウント」で移行対象ではないユーザーを削除します。実行情報の整合性を確保するため、移行対象でないユーザーは必ず削除してください。

2) 旧フローサービスの管理コンソールで設定値を取得する

旧フローサービスの管理コンソールで設定した内容はすべて再設定する必要がありますので、管理コンソールの次の画面の設定内容を取得し保存しておきます。

1. 「設定」－「プロキシ」の設定内容
2. 「設定」－「SSL」の各画面の設定内容
3. 「設定」－「ログ」の各画面の設定内容
4. 「設定」－「通知」の設定内容
5. 「設定」－「サービス」の各画面の設定内容
6. 「ツール」－「アカウント」の各ドメイン、各ユーザーの設定内容
7. 「ツール」－「サービス」の各サービスの自動起動の設定

3) 旧フローサービスから実行設定をエクスポートする

1. 旧フローデザイナーを起動します。
2. 旧フローデザイナーから旧フローサービスに接続します。このとき、旧フローサービスに存在するすべてのユーザーで2.から4.の手順を行ってください。
3. 実行設定の画面から「エクスポート」をクリックします。
4. エクスポートの画面では「ファイル名」として実行設定が保存されるローカルのファイルを指定します。また、「保存先」として「ローカル」を、「プロジェクトのエクスポート」として「エクスポートしない」を選択し「OK」ボタンをクリックします。

この作業が終了した後は旧フローサービス、旧フローデザイナーを停止しても問題ありません。

4) フローサービスでアカウントを作成する

1. フローサービスを起動します。
2. 旧フローサービスに存在するすべてのユーザーを、フローサービスの管理コンソールで新規に作成します。

作成するユーザーのドメイン名、ユーザー名は、旧フローサービスでのドメイン名、ユーザー名と同じ名前にしてください。旧フローサービスでユーザーのホームフォルダーを変更していた場合、ここで作成するユーザーのホームフォルダーは必ず旧フローサービスで使用していたフォルダーとは別のフォルダーを指定してください。

ホームフォルダー以外の内容は、必ず旧フローサービスでの設定と同じにしてください。

ここで一旦フローサービスを停止します。

5) システムに関連するファイルをコピーする

システムに関連する各種設定ファイルや JDBC ドライバ類をコピーします。コピー対象のファイルとコピー先は以下のとおりです。

- システムコネクション
WARP_INSTALL_DIR/flow/conf/connections/asconnections.xconf
→ ASTERIA5_DATA_DIR/system/conf/connections/asconnections.xconf
- JDBC ドライバ
WARP_INSTALL_DIR/jre/lib/ext にある JDBC ドライバの jar (または zip) ファイル
→ ASTERIA5_DATA_DIR/system/lib/drivers
- DTD
WARP_INSTALL_DIR/flow/services/flowservice/dtd にあるすべてのファイル
→ ASTERIA5_DATA_DIR/sytem/schema
(フローの中で DTD を使用していない場合、フォルダ自体が存在しないので移行は不要です。)
- カレンダー (スケジューラーの休日設定)
WARP_DATA_DIR/flow/data/schedule/holiday/*.holiday
→ ASTERIA5_DATA_DIR/data/schedule/holiday
(管理コンソールでカレンダーを作成していない場合は不要です。)
- プロジェクト情報
WARP_DATA_DIR/flow/home/asu/ProjectMap.xconf
→ ASTERIA5_DATA_DIR/home/asu/ProjectMap.xconf

6) フローに関連するデータ類をコピーする

旧フローサービスで使用していた「/asu」以外のユーザーのホームディレクトリにあるすべてのファイルを「4) フローサービスでアカウントを作成する」で作成したユーザーのホームディレクトリにコピーします。また、フローサービスを旧フローサービスと異なるマシンにインストールした場合、ホームディレクトリ以外にフローで使用するすべてのデータファイルを同じファイルパスの場所にコピーします。

「4) フローサービスでアカウントを作成する」の最後でフローサービスを停止していましたが、ここで再度フローサービスを起動します。

7) フローサービスで実行設定をインポートする

「3) 旧フローサービスから実行設定をエクスポートする」でエクスポートしたファイルをインポートするには、コマンドラインツール `flow-ctrl` を使用します。詳細については Web ヘルプサイトから `flow-ctrl` リファレンスを参照してください。

1. `ASTERIA5_INSTALL_DIR/server/bin` ディレクトリにある `flow-ctrl.bat` というバッチファイルをダブルクリックします。(Linux の場合は `flow-ctrl` というシェルスクリプトを実行します。)
2. 起動した画面から「4) フローサービスでアカウントを作成する」で作成したユーザー名とパスワードでログインします。
3. 以下のコマンドを実行します。
 `> import [3) でエクスポートしたファイル名]`

8) 管理コンソールで必要事項を設定する

「2) 旧フローサービスの管理コンソールで設定値を取得する」で取得した設定値を再度管理コンソールから設定してください。また、SSL を使用している場合、再度証明書をインポートするのを忘れないようにしてください。

9) フローサービスを再起動する

フローサービスを停止後、再度フローサービスを起動します。

以上で移行のための手順は完了です。

管理コンソールから URL 実行設定やスケジュールからフローが実行されていることを確認してください。

改版履歴

版数	日付	内容
第 1 版	2016/12/20	新規作成
第 2 版	2017/12/15	2.1 の「1) 旧フローサービスで移行対象ではないユーザーを削除する」を追加 2.1 の「2) 旧フローサービスの管理コンソールで設定値を取得する」と「3) 旧フローサービスから実行設定をエクスポートする」の順番を変更